

平成30年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

自己評価（中間報告）

石川県立津幡高等学校

学校長 鷺澤 勝

1 教育目標

- ① 自ら学ぶ意欲を養い、知性を磨き、生涯にわたって学び続ける態度を育成する。
- ② 思いやりの心を育み、社会性と協調性のある心豊かな人間を育成する。
- ③ 心身を積極的に錬磨し、健康で気力の充実したたくましい人間を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本校は平成13年に体育科（現在はスポーツ健康科学科と改称）と総合学科からなる学校に改編され、今年度創立95年目を迎える。地域や保護者から信頼され、選ばれる学校であろうと教育活動に取り組んでいる。
- ② スポーツ健康科学科の生徒は、各種競技大会や進学・就職で成果を挙げているが、近年、科内の学力差が目立つようになってきている。総合学科の生徒は、早期に進路目標を意識づける必要があり、「産業社会と人間」等を通したキャリア教育の充実が望まれる。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 学習意欲の向上 多様な学力を持った生徒が学習意欲を高め、達成感・満足感を味わえる授業改善に努める。
- ② 基本的な生活習慣の定着 多様な視点を通して生徒理解に努め、全教職員が一致協力して生徒の規範意識の向上を目指す。
- ③ 希望進路の実現 進路指導課、学年の連携を密にし、3年間を見通した計画的で効果的な進路指導を行う。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 学校評価や人事評価および生徒による授業意識調査の活用により、本校の教育力向上に向けて教職員の積極的な意識改革を図る。
- ② 教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方を心がけ、心身の充実を図るとともに活力ある学校づくりの推進に積極的に参画する。
- ③ 教育目標達成のために、各課分掌の連携を深め、組織としての機能を高めた学校体制づくりを進める。
- ④ 日々の実践や研修を通し、積極的に授業改善に努める。

3 今年度の重点目標

- ① 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）
- ② 授業の工夫、改善を行い、生徒の進路実現を図る（わかる授業への授業改善、体力の増進、キャリア教育の充実による生徒の進路意識の向上）
- ③ 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、生徒会活動の充実）
- ④ 地域、保護者との連携（保護者懇談会・ボランティア活動への生徒参加促進）

平成30年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立津幡高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
1 基本的な生活習慣の確立（挨拶の励行、規範意識の確立、清掃の徹底）	① 挨拶運動に取り組み、礼儀正しく、元気で活発な生徒を育成する。	生徒がすすんで挨拶していると思う保護者が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（保護者）96%	生徒会・部活動等による挨拶への取り組みが浸透してきている。 「あいさつ運動コンテスト」の実施が少なからず好影響を与えていると思われる。
	② 服装容儀の指導を徹底し、生徒の規範意識の向上を図る。	積極的に服装容儀・頭髪やマナーなどの向上に努めた生徒が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）96%	年6回の頭髪服装容儀指導や面接指導等を通じて、生徒の規範意識を高揚させることができた。 生徒・保護者が納得して指導を受け入れてもらえることが重要なので、適切な指導となるようアンケート調査の結果を踏まえ、今後も継続して指導していく。
	③ 規則正しい家庭生活を送るよう指導することで、遅刻する生徒を減少させる。	遅刻総数の前年比減少率が A 15%以上である。 B 10%以上である。 C 5%以上である。 D 5%未満である。	A 7月時点で総数は前年度より49件減少 17.7%減少	遅刻数については、H28年度に825件となり、年間1,000件を下回ったが、H29年度は821件とやや下げ止まっていた。今年度は、現在までのところ改善傾向となっている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	④ 清掃の徹底により、学習環境の向上とさわやかで心豊かな学校生活の実現を図る。	環境美化委員会による清掃点検で「きれいに清掃されている」、「だいたいきれいに清掃されている」の合計が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	B 7月の環境美化委員の評価では97%	昨年度の中間評価（昨年度96%）と比べ数値がわずかに上がっている。 昨年度に引き続き、年度初めに教室清掃のマニュアルを提示し、定期的な清掃点検に加え、清掃用具の点検も行い、校内美化の意識高揚を図っている。 さらに評価が向上するよう、保健委員会を活用しながら指導を継続していきたい。
	⑤ 生徒の良好な人間関係づくりを支援し、不安なく充実した学校生活を送れるようにする。	学校生活に概ね満足している生徒が A 90%である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）77%	不登校等の未然予防の取り組みを充実させ、早期発見・早期対応に努めてきた。また、人間関係に不安を抱いている生徒には面談を行い、その解消に努めてきた。 今後は、声かけをさらに充実し、生徒が不安なく学校生活を送れるようにしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 挨拶に関する取り組みや服装容疑等のマナー向上については成果をあげている。今後も継続して取り組んでもらいたい。 生徒の良好な人間関係づくりについては、「良好な人間関係」とはどのような状態をいうのか生徒にしっかりイメージさせる必要がある。 		
校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> 担任間の情報共有に努め、生徒には互いに理解し合って、適度な距離感を保つことが大切であることを指導していく。また、人間関係によるトラブルの早期発見・早期対応を図るため、全教職員による生徒観察に一層努める。 学校カウンセラーによる面談をきめ細かく行うとともに、教職員による積極的な声掛けを行い、トラブルの未然防止を図る。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
2 授業の工夫、改善を行い、生徒の進路実現を図る。（わかる授業への授業改善、体力の増進、キャリア教育の充実による生徒の進路意識の向上）	① 教材・教具や指導方法を工夫して生徒の興味・関心を引き出し、わかりやすい授業を行うよう授業改善に努める。	わかりやすく興味・関心を引き出す工夫が感じられると答える生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月の生徒による授業評価では94%	アンケート項目『授業を受けて「わかった」と感じる』に“ <u>あてはまる</u> ”※と回答した生徒の割合が67.3%と他の項目と比べて少し低い結果となっている。 このことを受けて、生徒が“ <u>わかった</u> ”と感じられる授業の工夫・改善に今後も取り組んでいく。 ※「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合計すると、93.5%となる。
	② 教員間で授業見学を行い、授業力向上を図る。	各学期に1回以上授業見学を行った教員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である C 70%以上である。 D 70%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート（教職員）92%	6月と11月、2月に2週間ずつ互見授業期間を設定して授業力向上に努めている。 本年度は、授業時間数がどの職員も多く、その合間を縫って授業見学を行っているが、短時間でも見学することが教員の授業改善のみならず、生徒の学習態度にもよい影響を与えている。
	③ 生徒の体力向上に努め、たくましい人間づくりに取り組む。	前年度の自己記録を超えた生徒が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	D 5月のスポーツテストの結果では59%	自己記録を更新した生徒について、男子は71%と高い割合を示しているが、女子は45%とやや低調であった。 その要因である、総合学科女子の体力向上を図っていきたい。
	④ 一人一人の生徒に対してしっかりと進路指導を行い、確実な進路希望の実現を図る。	進路内定・決定率が A 100%である。 B 95%以上である。 C 90%以上である。 D 90%未満である。	—	最終集計で判断する
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 授業の工夫・改善については一定の成果が認められる。 総合学科の生徒はもちろん、スポーツ健康科学科においても進路選択の幅を広げるため、様々な資格が取得できるよう取り組んでもらいたい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> 生徒がわかったと感じられる授業となるよう、研究授業等を通して教員一人ひとりが授業力向上に一層取り組む。 英語検定及び数学検定の受検者数の増加を図り、学習への意欲を喚起するとともに、生徒の多様な進路実現につなげる。 就職希望者に対するビジネスに関する資格やフォークリフト、小型建機に関する資格取得の取り組みを一層充実させる。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 部活動の計画的な実施による効率的・効果的な生徒の技術向上と生徒会活動の活性化（全国大会での上位入賞、生徒会活動の充実）	① 県内トップレベルの競技力を維持し、全国大会に出場できる各種トレーニングを行う。	全国大会に出場した運動部が A 7部以上である。 B 6部である。 C 5部である。 D 5部未満である。	A 全国高校総体に8部出場（男女柔道、女子バスケットボール、なぎなた、フットリフティング、陸上、ボート、射撃部）	スポーツ健康科学科だけでなく、総合学科の生徒の活躍もあり、部活動全体の活性化につながっている。
	② 部活動を計画的に実施し、科学的な理論に基づき効果的・効率的に生徒の技術向上を図る。	部活動が計画的で充実していると思う生徒が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 60%未満である。	C 7月の教育活動に関するアンケート （生徒）79%	各部とも活動予定表を作成し、定期的に休養日を設けるなど、計画性のある部活動となるよう努めている。 この結果を部活動運営に反映させ、計画性と充実度の向上を図りたい。
	③ 生徒会執行部の企画力・実行力を育み、活動を充実させるとともに、各種の行事を成功させ、学校生活の充実を図る。	生徒会活動が活発に行われていると思う生徒が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	A 7月の教育活動に関するアンケート （生徒）76%	生徒会役員により6月から実施している「あいさつ運動ウィーク」や各種ボランティア活動への参加の呼びかけが、成果の一因であると考えられる。 この後開催される一大イベントである「津高祭」を成功させ、更なる活性化につなげたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会への出場等、部活動の成績に関してはよく頑張っている。 ・部活動において定期的な休養日の設定や効果的な活動計画をしっかりと練って効果的な練習に励んでもらいたい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各部から年間活動計画、各月においても月間活動計画の提出を義務づけ、活動時間や休養日の確認をしている。今後は計画が確実に遂行されたかどうかをしっかりと検討し改善につなげる。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
4 地域・保護者との連携（保護者懇談会の充実、ボランティア活動への生徒参加促進）	① 学校通信（校内、地域）の発行やHP・学校メール配信により学校情報をきめ細かく発信する。	学校のHPや学校メールの発信に満足している保護者の割合が A 85%以上である。 B 75%以上である。 C 65%以上である。 D 65%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（保護者）84%	各種大会や行事終了後、速やかにHPを更新するよう教職員に意識付けしていく必要がある。 学校配信メールについても、翌月の学校行事が決まり次第早急に配信するようにしていく。
	② PTA総会や学校公開等の参加者を増やし、保護者や地域に対して本校の教育活動を理解してもらおうよう働きかける。	PTA総会や学校公開等の保護者の参加率が A 30%以上である。 B 20%以上である。 C 10%以上である。 D 10%未満である。	B 5月のPTA総会・学校公開時の参加率は22%。出席者95名。	PTA総会への参加者は、前年度57名に対して今年度は65名と、若干ではあるが増加した。 学校運営に対して少しでも興味を持ってもらえるよう、保護者に対する情報発信に今後も工夫が必要である。 また、学校公開の際には、授業以外にも保護者が興味を持てる企画を考えていきたい。
	③ 様々なボランティア活動に参加する生徒を増やし、社会経験を豊かにし、他者と協働する意識を高める。	様々なボランティア活動に参加したと答える生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	B 7月の教育活動に関するアンケート（生徒）51%	年度当初から多くの生徒が様々なボランティア活動に協力してくれたおかげで昨年より良い結果となっている。 9月実施予定の「あいさつ運動コンテスト」によりさらに参加率の向上が期待できる。
学校関係者評価委員会の評価	・PTA総会、学校公開等への保護者の参加率を向上させる取り組みが必要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・PTA活動の内容が認知されていないことが参加率の向上につながらない一因であると考え、PTA役員と連携し、文化祭等の学校行事を通じて活動内容を知ってもらうとともに、保護者が関心を持つような取り組みを実施していく。			